

東京オペラ協会創立 40 周年記念事業

歌劇「天空の町—別子銅山と伊庭貞剛」

《平成 29 年度全国巡演》

企画書



東京オペラ協会グループ

<http://www.tokyo-opera.gr.jp> e-mail:office405@tokyo-opera.gr.jp

東京事務局:160-0022 東京都新宿区新宿 2-14-6-405 Tel:03-5269-7895 Fax:03-5269-7893

九州本部:859-3712 長崎県東彼杵郡波佐見町中尾 660 Tel:0956-85-2027 Fax:0956-85-6267

オペラプラザ長崎(石多):090-4380-2339 オペラプラザ福岡(原田):090-5294-7931

オペラプラザ岡山(広瀬):090-6656-1976 オペラプラザ愛媛(秦):080-3164-1148

オペラプラザ新宿(田村):070-5810-1976 オペラプラザ関西(大島):090-9137-1976

ごあいさつ



謹啓

文化薫る秋が訪れました。各位にあらましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

東京オペラ協会はお陰さまで本年創立 40 年を迎えました。

これまで、東京オペラ協会及び全国各オペラプラザグループの活動に格別のご理解を賜り、改めて深く感謝申し上げます。

さて、別紙にございますチラシなどの通り、2012年5月に愛媛県新居浜市で初演されました歌劇「天空の町―別子銅山と伊庭貞剛―」昨年のポルトガル公演、本年のドイツ公演の大成功により、日本各地でも記念巡演を企画させていただくことになりました。

この歌劇の物語は、今から100年余り前のこと。煙害で荒れ果てていた別子銅山を、緑に還した伊庭貞剛を主人公にしたものです。

伊庭は住友の支配人として、別子銅山に火中の栗を拾うがごとく決死の思いで赴き、企業経営と自然を守ることの両立の困難を乗り越え、万難を排して山を緑に還しました。

様々な困難を乗り越えて彼が歩んだ道を、日本の伝統音楽を取り入れた「日本らしい歌劇」にして歌い上げるにより、日本と、日本人の心が顕かになってくるでしょう。

日本人の本来の心とは、

自然を深く畏敬し、人を優しく思いやり、我欲を捨てて清貧を重んじることだと思えます。

伊庭の生涯を描くことは、人類の歴史を見つめ直し、「大自然とともに」という私たちが今から歩いて行くべき道を世界に指し示すことになるでしょう。それは日本から世界に向かって投げかけるべき、今一番大切なメッセージではないでしょうか。

また私たちは、ユニバーサルデザインの考え方により、プロ、アマ、障がいの有無を問わずいろいろな方々の地元参加による公演を心がけ、特に青少年には、本物のオペラを身近に鑑賞してもらうことを願って活動を続けております。

今回は公演規模をコンパクトにまとめ、どなたにもご鑑賞していただきやすい形にしてお届け出来るようになりました。

つきましては、この公演を主催していただけますよう、様々な角度からのご支援をここに慎んでお願いする次第です。

謹白

平成28年10月吉日

NPO 法人東京オペラ協会 代表 石多エドワード

2017年度全国巡演 概要・経費

上演可能会場：公民館、体育館、多目的ホール、音楽ホール、など

上演可能時期：東京オペラ協会グループの公演時期と重ならない時期

上演規模：和楽器含むエレクトーン伴奏による小規模公演（総勢約15名）

上演時間：80～100分（地元参加の形によります）

公演経費：以下の1～5の合計

1、 上演費＝60万円

2、 移動滞在費＝20～50万円

3、 地元参加指導経費＝0～20万円

（ソリスト、合唱団、児童合唱団、役者などの指導に5回程度出張指導）

4、 印刷経費＝0～10万円

（当会がA4チラシ200枚、A2ポスター200枚を製作した場合）

5、 事務所経費＝10万円

総計＝90万円～150万円

★会場費がかかる場合は主催者側でご負担ください。

★余剰金が出た場合は、公演主催者の活動資金などにご活用ください。

★公演回数が2回以上になった場合、上演費は2回目から半額になります。

★オーケストラ付の本公演をご希望の場合、公演時間が3時間近くになり、
経費が公演会場によって500～800万円程度になります。

詳細はお問い合わせください。

直通電話：080-3583-7411

作品紹介

主な登場人物

旅人 = [バリトン]

伊庭貞剛 = [バスバリトン] (旅人と兼ねることもある)

最初の妻、松 = [ソプラノ]

二番目の妻、梅子 = [ソプラノ]

塩野門之助 = [テノール・レジェロ] (切り上がり長兵衛と兼ねることもある)

森の精 = [ソプラノ] (松か梅子が兼ねることもある)

伊庭貞剛の心の声 = [ソプラノとメゾソプラノ]

峨山和尚、田向重右衛門、切り上がり長兵衛、別子山の花・樹木・動物など

あらすじ

《プロローグ》 優しい大自然 (現代)

幕が上がると、緑豊かな別子山の映像が舞台いっぱいに展開してゆく。

そこに旅人が一人やって来て、そこに咲き乱れる花たちや動物と別子山の歴史を振り返る。

活気付いた往時の別子山が蘇ってくる。

《第一幕》 青春 (弘化 4 年[1847]～明治 27 年[1894])

別子山が生活観いっぱいに踊り歌われる。

若い伊庭は結婚して、すぐに最初の妻を亡くすが、それを乗り越え、世に出て行く。

やがて梅と再婚し、故郷に帰り束の間の家族団らんを楽しむが、師と仰ぐ峨山和尚の言葉により、伊庭は推挙されてなった国会議員を辞し、困難を承知で別子銅山に単身向かうことを決意する。

《第二幕》 晩晴 (明治 27 年～大正 15 年[1926])

火中の栗を拾うが如く、煙害で荒れ果てた別子山に來た伊庭貞剛。

過酷な労働に苛立つ鉱夫たちとの危険な折衝に、伊庭は誠実に粘り強く向き合い、労使紛争の解決、煙害の克服、別子山の緑化、など全てを熟慮、祈念、放下、断行し、遂に解決に導く。

それを峨山に誇らしげに報告する伊庭だったが、峨山からは「世の中まじめに見てな」の一言。

四阪島に工場を移すことによって煙害を克服できたと思い込んでいた伊庭に、煙害が逆に今治の方まで広まってしまったとの報告を受ける。愕然とした伊庭だったが、自分の成功は周りの人々に支えられて出来たことであり、驕ってはいけなと気づき、それを教諭してくれた峨山和尚に涙ながらに深く感謝する。

やがて死を前にした伊庭は、日本人の本来の心である、清貧、陰徳、謙虚、素朴、無為自然、自然賛美、などを世界へ伝えてくれと遺言する。

《エピローグ》 大自然の歌

緑に戻った別子山がもう一度浮かび上がる。我欲に振り回される今の人間世界を超然と笑い飛ばし、大自然に還ろう、と語る旅人とともに、すべてが別子山に生きる元気な命としてもう一度甦り、大自然に抱かれていることの幸せを最後に歌いあげる中、伊庭の晩晴の笑顔が舞台一面に映像で広がる。

各界から東京オペラ協会への応援メッセージ

東京オペラ協会の活動を応援させていただいて嬉しく思っております。オペラを公演するだけでも大変なことなのに、代表の石多エドワード氏はオペラで国際交流することにより世界各地に友人の輪を広げてゆこうとなさっています。東京オペラ協会の活動がますます大切な時代になってきました。私も出来る限りの応援を続けさせていただきます。

■磯村尚徳(元 NHK 報道局長)

石多エドワード氏との初対面は25年の昔です。1961年同氏が東京オペラ協会を率いてポルトガル、スペイン、イタリア公演をする。ローマでは法王庁でローマ法王にオペラを奉呈する予定。オペラは天正遣欧少年使節団のテーマ、忘れられた少年です。との計画をお聞きし、即座にご支援を申し出ました。その後もさらに活躍され続けている同氏の勇気は、私の人生にも大きな力を頂いています。

■伊藤七郎(伊藤喜ベストメイツ株式会社社長、高津高校同窓生)

日本の社会福祉の再重鎮であられる徳川先生から、ご紹介を受け、喜んで応援させていただきました。この歌劇「天空の町」が障害を持つ人々にとっても、大きな喜びとなることを期待しています。精一杯の応援をさせていただきます。

■岩田俊二(社会福祉法人弥栄福祉会 理事長)

私の小説「高山右近」や「ザビエル」を原作とされたオペラに限らず、石多エドワード氏の作品は何度も拝見しましたが、どの作品にも氏の深く暖かい愛を感じます。最新作の歌劇「天空の町」は内容の壮大さのみならず、出てくる歌の美しさにも圧倒されました。これからも、素晴らしい活動を続けられることと思います。頑張ってください。

■加賀乙彦(作家)

石多エドワード氏とお会いし、その率直で飾らない人柄、このオペラと主人公である伊庭貞剛にかける情熱に触れ、また過去の公演のDVDを観て、高津高校同窓の先輩として、氏の出身地でもある大阪での初演を、是非とも成功させなくてはならないと思うに至りました。皆様とともに応援したいと思います。

■梶本徳彦(元高津高等学校同窓会長、元大阪府副知事)

石多エドワードさんの台本、作曲による「天空の町」がいよいよここ大阪で公演されます。江戸末期から明治、大正にかけての日本の近代化への歩みとそれを支えた人々の群像。同じ愛媛県松山を舞台にした司馬遼太郎さんの「坂の上の雲」の明治の群像と重なる部分があります。「まことに小さな国が開花期を迎えようとしている」、この時代の正岡子規、秋山兄弟とともに、広瀬幸平、伊庭貞剛の取組に明治期を支えた人々の息吹を感じてください。

■総山 哲男(大阪府社会福祉協議会会長、元大阪府副知事)

歌手である妹の加藤登紀子の関係で石多エドワード氏を紹介され、現在私が経営している四条河原町のレストランキエフで何度もお会いし、びわ湖ホールでの公演も拝見し、この歌劇に込められた、日本人と日本のあるべき姿に深く共鳴するようになりました。日本の心を大切にされた歌劇が生まれたと喜んでおります。

■加藤幹雄(元住友重工業副社長、加藤登紀子の実兄)

伊庭貞剛がオペラになったと、私ども新居浜西高校の卒業生で作っている「近畿くすのき会」と新居浜倶楽部で話題になりました。私は早速、東京まで鑑賞に行き、その素晴らしさに感動し、是非とも協力させていただきたいと思いました。新居浜では広瀬幸平が大恩人として知られていますが、その甥でもある伊庭の偉業を世界に知らしめてくださることに感謝しております。

■加藤幸則(近畿くすのき会名誉会長、元大阪府弁護士会会長)

天空の町「大阪初演」おめでとうございます！2014年5月びわ湖ホールでこの歌劇を公演させていただいたのが、まさに昨日のように思われます。

この歌劇の歌や内容の素晴らしさは、ご覧いただければお分かりになられることと思いますが、ユニバーサルデザインオペラでわかりやすく表現され、現代に最も大切な人間社会と自然環境の問題に希望の光を投げかけています。今後とも一緒に頑張りましょう。

■國松善次(元滋賀県知事、スペシャルオリンピックス日本・滋賀会長)

愛媛県が世界に誇れるものに、別子銅山の歴史と現在があるように思います。

煙害で荒れ果てた鉱山が、現在のように緑の山に戻っている姿から、私たちは何を学ばいいのでしょうか？石多エドワード氏が台本作曲された歌劇「天空の町―別子銅山と伊庭貞剛」を何度か拝見し、その素晴らしさに改めて感動いたしました。まさに地域文化が花開き世界にも発信できるものだと確信しました。

■酒井稔(元愛媛県文化協会会長、元天空の町を育てる会会長)

大自然に抱かれる感動のオペラ再び

「天空の町」の舞台は、私の故郷・愛媛県の新居浜。住友発展の礎となった別子銅山があった。銅の精錬所が出す煙害で荒廃した山を緑に蘇らせた明治の男・伊庭貞剛の物語がオペラになり、2012年5月に故郷で初演された。その4年後、私の住む大阪で再演されることは感慨深い。生き返った緑の樹木、動物たち、それらすべてが別子山に生きた元気の命として、大自然に抱かれることの幸せを最後に歌いあげる、このオペラの感動は再び私の胸に蘇る。

■白鳥 正夫(文化ジャーナリスト・新居浜文化協会顧問)

「天空の町」は、地球環境の悪化が進行している現代、私たちに対して進むべき道を明確に示している。100年先を見通した明治の先覚者、伊庭貞剛の人生は、日本人に自信と誇りを与える。出演者に幼稚園児なども参加するユニバーサルオペラは、芸術を身近にし、他人への思いやりを育ててくれる。感動をたくさんの人と分かちあいたい。

■炭谷 茂(恩賜財団済生会理事長、元環境省事務次官)

ユニバーサルデザインの考えで障がい者も参加できるオペラ公演をされることは、おそらくは大変なご努力とご苦勞を重ねられていらっしたことでしょう。それをここまで成功され、多くの皆様の御支持を得られてきていることに改めて深く敬意を表します。私たちも、出来る限りのお手伝いをさせていただきたいと願っております。

■徳川輝尚(歌劇「天空の町」を観る滋賀市民の会会長)

歌劇「天空の町」公演実績一覧

2011年5月25日 新居浜市市民文化センター ハイライト公演 集客700名
主催：新居浜市

2012年5月26,27日 新居浜市市民文化センター 2000名
主催：新居浜公演実行委員会
助成：新居浜市300万円（市制75周年記念）アサヒビール文化財団30万円

2012年7月14日 東京オリンピックセンターカルチャー棟 プレゼン公演 300名
主催：東京オペラ協会（写真1）

2012年11月16日 東京オリンピックセンターカルチャー棟 第2回プレゼン公演 300名
主催：東京オペラ協会

2013年1月14日 福岡市中央市民センター 500名
主催：オペラプラザ福岡

2013年2月16日 サンパール荒川 700名
主催：東京都荒川区・東京オペラ協会

2013年9月16日 新宿文化センター 800名
主催：東京オペラ協会（写真5）



1

2013年9月27・28日 新居浜市市民文化センター 800名
主催：オペラプラザ愛媛・別子山音楽祭 共催：新居浜市
助成：芸術文化振興基金130万円

2013年10月19日 八幡浜市ゆめみかん 400名
主催：オペラプラザ愛媛 共催：八幡浜市

2013年12月8日 長崎県松浦市文化会館 500名
主催：オペラプラザ長崎 共催：松浦市（写真2）



2

2014年4月30日 東京オリンピックセンターカルチャー棟 欧州公演記念 300名
主催：東京オペラ協会

2014年5月3日 新居浜市市民文化センター 500名
主催：オペラプラザ愛媛・天空の町を育てる会 共催：新居浜市
助成：芸術文化振興基金 180万円



3

2014年5月6日 びわ湖ホール 1000名 (写真4)
主催：東京オペラ協会 共催：天空の町を観る滋賀市民の会

2014年8月2日 ポルトガル・リスボン市トリンダーデ劇場 400名 (写真3)
主催：エストリル音楽祭 共催：リスボン市
助成：社団法人東京倶楽部 120万円



4

2014年8月6日 広島市アステールプラザ 600名
主催：稲盛アートプロジェクトグループ (IAPG)

2014年10月12日 長崎県佐々町文化会館 400名
主催：オペラプラザ長崎 共催：佐々町
助成：松蘭記念財団 30万円

2015年9月26・27日 松山市総合コミュニティーセンター 500名
主催：オペラプラザ愛媛

2015年10月17日 四国中央市ユーホール 300名
主催：オペラプラザ愛媛

2016年5月8日 (日) 大阪国際交流センター 2回公演 800名
主催：オペラプラザ関西



5

2016年6月11日 (土) 入間市市民会館 500名
主催：オペラプラザ新宿

2016年7月31日 (日) ドイツ・ヴォルフラーツハウゼン 400名 (写真6)
主催：東京オペラ協会
助成：社団法人東京倶楽部 200万円



6